



コスモス

校訓：支え合い 学び合い たくましく
学校教育目標

「ふるさとを愛し 志をもって
チャレンジする人を育てる」

你好(ニーハオ)

台北市立三興小学校の子どもたち13名との交流

三興小学校からの3～6年生13名の子どもたちと、引率の先生方と保護者のみなさん10名が到着しました。

まずは、歓迎セレモニー。全校児童が体育館でお出迎えしました。私と6年生代表の子が歓迎のあいさつをしました。Google 翻訳を使って、中国語の挨拶を考え、それをカタカナに直して練習し、話そうとしていました。しかし、直前になって、「多分これでは通じないだろう」と思い、始めの、「你好(ニーハオ こんにちは)。」と「歓迎(ファンイン ようこそ)。」と、終わりの「非常感謝()的合作(フェイスアンカン シェンインドウ フートウオー どうぞよろしくお願いいたします)。」だけを中国語(?)で、後は日本語で話しました。その後の6年生の代表の子の方が、私の中国語よりもすばらしかったです!!

その後は、財田の3・4年生と日本の昔からの遊びで交流しました。剣玉・折り紙・お手玉の3つです。小グループに分かれてローテーションしながら、全員が3つの遊びを体験しました。剣玉は手だけでなく膝のクッションを使うことが重要です。台湾の子どもたちはかなり苦戦していましたが、あきらめることなく、みんな一生懸命に何度も何度も挑戦していました。すばらしかったです。財田の子たちも苦戦している子が多かったですが、中には膝を上手に使って皿に載せたり、剣に刺したりできている子が何人もいました。さすがでした!?

折り紙やお手玉も、器用さが必要です。台湾の子たちにとっては、ほとんど経験のないことばかりだったと思いますが、とにかく、粘り強く、あきらめずにがんばっていることに感動しました。

次に、財田の5・6年生と「新財田音頭」で交流しました。新財田音頭は、運動会での発表に向けて練習にがんばっているところであり、財田ならではのものです。それを台湾の子どもたちに、まず踊って見せました。その次は、台湾の子にも踊れるようになってもらおうという計画です。「言葉が通じないのに教えてあげられるかなあ?」とちょっと不安に思っていました。子どもたちの力はそんな不安を吹っ飛ばしました。言葉は通じなくとも、身振り手振りで一生懸命に教えていました。台湾の子どもたちは、それを一生懸命に吸収しようとしていました。そして、約15分。練習タイム終了。みんなでいっしょに踊りました。台湾の子どもたちは財田の子の動きを見ながら、始めから終わりまで、隊形移動も行い、しっかりと踊り切りました。見事でした。言葉は通じなくとも、心が一つになった感じがしました。

給食は、3～6年生の同じ学年に分かれて、いっしょに食べました。日本の給食を、いっしょに美味しく食べてくれたと思います。

昼休み、台湾の13人の子どもたちは、財田の子どもたち(希望者)といっしょに、運動場でくしっぽとりおにごっこをしました。台湾の子どもたちも外遊びが大好きなんだなと思いました。いっしょに遊べば、言葉は通じなくても仲よくなれるなと思いました。

台湾の大人のみなさん向けの校内ツアーを、財田の5・6年生有志の子どもたちが行ってくれました。ありがとうございました。

楽しい時間はあっという間に過ぎます。お別れの時間がやってきました。3月の卒業式のお見送りの時



のように、ロータリーから正門に向かって財田の子どもたちが作った花道を歩いてもらいました。

3時間ちょっとの交流でしたが、子どもたちは楽しく自然に交流をしていました。三興小学校の子どもたちも、財田の子どもたちも、とてもすばらしかったです。

※裏面に続く。

